

史跡草津宿本陣衣装体験「大名・姫になりきろう!」

江戸時代の衣装を体験し、本陣で写真を撮りませんか。写真はポストカードにしてプレゼントします。

- ①お手軽コース(姫のみ)打掛を羽織る簡単なもの
- ②豪華コース(大名・姫)本格的な衣装を着ます
- 📅 11月29日(土) 10:00~15:00(30分程度) 📍 史跡草津宿本陣
- 👤 身長145cm以上の人 定 10人(先着順)
- 💰 ①200円 ②500円、入館料別途要
- 👕 襟のない服を着用して来てください 申 11月3日(月)祝~
- 📞 申・問 史跡草津宿本陣(草津一) ☎・FAX561-6636



KUSATSU

歴史ギャラリー

幕末の物価を垣間見る—諸色相場之覚—

No.216

「諸色相場之覚」は本陣当主・田中七左衛門が安政5(1858)年2月18日、鳥取藩主・池田慶徳に宛て、事前に草津宿周辺の物価の相場を伝えるために書かれたものだと考えられます。

池田慶徳は水戸藩主・徳川齊昭の五男で、鳥取藩主の池田慶栄が急逝したことから、幕命を受け、鳥取藩主となった人物で、安政5年2月7日~28日に参勤交代の帰路についていました。池田慶徳が称している松平相模守・因幡少将の名前が安政5年の大福帳(草津宿本陣蔵)に記載されており、2月20日に当本陣に宿泊したことが分かります。

本資料には金小判や銀を銭貨に両替するときの金額や、上旅籠・下旅籠・木賃宿に泊まる際の値段、食材や草鞋など参勤交代などが必要になるものの価格が記されていて、当時の宿泊代や物の値段、食事情などが分かる資料となっています。金一両に対する銀の両替が書かれている理由は、当時流通する貨幣の主流が江戸では金、大阪や京都では



▲諸色相場之覚(草津宿本陣蔵)

銀と異なっていたためです。本陣では、その換算率にしたがって休泊の費用などが支払われていたとされています。また「玉子拾ツニ付式百文」と書かれています。当時の1文を現在の20円と換算(諸説あり)すると、卵10個が約4,000円となり、当時の物の価値が現在と違っていることが分かります。

今回紹介した資料は、史跡草津宿本陣で開催中の企画展「たびにかかるお金—宿場町の視点から—」で展示しています。本展では、宿泊費や食事代、人やものの移動などにかかる旅の費用について、本陣所蔵の資料を中心に紹介しています。ぜひお越しください。

問 草津宿街道交流館(草津三) ☎567-0030、FAX567-0031

Kusatsu Information

いつでもどこでも「広報くさつ」



市ホームページ



ラジオえふむ草津
(FM78.5MHz)
「声の広報」



スマートフォン用アプリ
● マチイロ
● SideBooks(ちいき本棚)

市公式ソーシャルメディア



草津市メール
配信サービス

市の情報をメールで
配信するサービス



くさつチャンネル

さまざまな動画や、
びわ湖放送(BBC)
で放送されている
草津スケッチもこ
ちらから配信!



市の花
アオバナ



市の木
キンモクセイ

9月30日現在(対前月比)

- 人口141,090人(+85)
- 世帯数65,588世帯(+102)
- 男70,652人(-19)
- 女70,438人(+104)



7月から
開庁時間を
変更しました

変更後

9:00~16:45

ご理解とご協力をお願いします。詳しくは、市ホームページをご覧ください。

